

閉 講 式 式 次 第



令和元年 9 月 28 日 (土) 午前 10 時

会場 浦添市市民協働・男女共同参画
ハーモニーセンター

1 開 式

2 浦添市歌斉唱

3 学長あいさつ 学 長 松本 哲治

4 受講成果発表 受 講 者

5 アドバイザーメッセージ アドバイザー 上地 武昭

～ 休 憩 ～

6 受講証書授与 学 長 松本 哲治

7 お礼のことば 市民協働・男女共同参画課長 森田 牧子

8 閉 式

☆ 写真撮影



【受講成果発表の概要】

受講者愛称		タイトル
1	マキ	浦添だから…一番です
2	なおちゃん	市民と行政の協働
3	じん	つなぎ役・見守り役
4	きくの	共有…私たちのうらそえ
5	なつき	浦添の町づくり。地域と繋がる
6	のんさん	学んで知った事…どうかかわるか
7	しんじ	浦添の課題…身近にとらえるために
8	ジュン	浦添よいとこ！
9	きーのー	子どもが輝くまち うらそえ
10	りゅうこ	子供の町…明るい 浦添
11	こじゃ	ゆる～いネットワークでつくる 誰にでもやさしいまちづくりをめざして
12	由美ちゃん	トキメキの街 浦添
13	みや	私のうらそえ、今昔。

1 マキ 「浦添だから…一番です」

社会人を卒業して“何かやらねば”と、ウォーキング協会に入会して10年、体重も落ちて健康を維持できている。体だけでなく頭も使おうと昨年の市民大学に申し込んだが、途中リタイヤし、今年度再チャレンジした。

毎回の講座は、考える暇もなく、ついていくのに精いっぱい、何をし、どう活かすのか見つかっていない。振り返ると、まず、皆さんと知り合いになれたこと。“協働”では自分に何ができるかを決めること。そして、うらそえのまちを知るには、歴史を意識すること。歴史ガイドも受講した。

最も気になるテーマは、こどもの貧困、弱者への支援。個々の状況に合わせた改善策が必要で、さらに、最近の



台風被害やその際のメンタルケアなど、世の中の変化に合わせた対応が必要だと思う。また、誰もが参加できる事例として、市内の道路、公園、名所、旧跡の草刈りや清掃がある。行政は、清掃用具やチームづくりの支援を行い、各チームで内容や役割、実施日などを決めて、反省会や課題の整理なども行うことだと思う。モノレールの開通で、うらそえをもっと知っていただけるチャンスです。

“きれいで、わかりやすく歴史を感じるまち浦添”は沖縄で一番です。

2 なおちゃん 「市民と行政の協働」

てだこ市民大学を受講した理由は、地域活動に対する興味があって、那覇の協働大学や協働大学院に参加して、受講したメンバーとのつながりができた。そんな中、浦添のてだこ市民大学を知って受講した。

この発表のために、昨日、仕事が終わってからカフェに行って考えた。講座内容を見ると、総合計画から、高齢者のこと、こども達のこと、地域のことと続いていくが、どれも課題が多く、課題を認識することで終わってしまう。例えば、高齢化や高齢者の居場所づくりなど、高齢者の課題があるが、当事者の視点が必要だ。

市民大学では、参加者の肩書、例えば、行政職員は行政の視点を強く感じる。行政と市民の視点は違い、まちづくりについても隔たりがあることが課題ではないか。そこで拮抗しているからうまくいかないのではないかな。

スターバックスの採用したサードプレイスという考え方や絆の捉え方、そういう弱いつながりをベースに、大事にしていくべきではないかと思う。

3 じん 「つなぎ役・見守り役」

市民大学で得た一番大きなことは、仲間たちと出会えたこと。私の大切にしていることは「人とのつながり」で、それは、知ることができる、チャンスが増えるからです。てだこ市民大学は大学の先生に教えてもらったが、その先生がいなければ、ここまでできなかったと思う。

浦添市でも、高齢者が増えて、5人に1人は65歳以上の高齢者になる。単身高齢者も多い。CSWの方のお話では、高齢者の孤独死やゴミ出しが困難な例もあることを知った。

市民としてできることは何か考え、地域



福祉協力員になった。協力員は地域のアンテナ役、まさに、つなぎ役・見守り役で、「みつける、しらせる、つながる、支える」の4つの役割をもっている。沖縄県が推進しているSDGsの誰一人取り残さないという考え方にもつながる。

自分の強みは、行動力なので、これからも市民活動が続けていきたいし、市民大学で得た知識を活かしていきたい。

4 きくの 「共有…私たちのうらそえ」

市民大学に通うきっかけは、私の知っている浦添は仕事を通して見えてくる狭い範囲なので、「うらそえのまちを知る」という今回のテーマがフィットした。

私の知っているうらそえは、高齢者や自治会加入率といった課題ばかりだが、総合計画や商業、歴史、教育に関する講座を通して、うらそえの強みを知ることができた。例えば、総合計画ではモノレールのことや西海岸のことで知り、行政もいろいろ考えていることを知った。商業では、「通り過ぎるまち“うらそえ”」のことばがある一方、実際にはいろいろな取組があること、歴史ではうらそえが王国の始まりであること、防災ではすてきな人に出会えて、私のテーマでもある“つながること”を実感した。

共有・共感・協働というストーリーの中で、強みを語り合うことで共有できたこと、メンバーと話し合えたことが良かった。皆さんといろいろなことができると思う。仕事に疲れていた時でも、参加してみると楽しくて疲れを忘れることができた。まずは、家族や身近な人と学んだことを共有するところから始めたい。

5 なつき 「浦添の町づくり。地域と繋がる」

市民大学の募集を見たとき、住み始めて7年になるけど、“うらそえのまちづくり”という言葉と自分がかけ離れていることに気づき、どんなまちか知りたいという漠然とした気持ちから通い始めた。

様々な立場の人から話を聞く中で印象に残っているのは「つながる」という言葉。認知症の方の支援や生活に困難を抱えることも達の話はとても重かったが、様々な人が関わる地域支援の形を知ることができた。ボランティアとして行動に移せない私のような人間にとって、ちょっとした生活支援など



は、無理なく参加できるものだと感じた。

さらに、何ができるか考えたところ、図書館で働く私が気づいたことは、自分で図書館に来ることができない子供たちのこと。そこで、ボランティアとしてお話を開催し、こども達とつながることができないかを考えた。このことは、「つながる」ことがなかった私の変化であり、仕事を通して得た知識や経験を通して関われることです。

市民大学で、うらそえについて学び、ボランティアとしてできることを考えるきっかけができたことは、とても有意義な時間だった。今後、支援の輪に入り、うらそえのまちづくりに参加したい。

6 のんさん 「学んで知った事…どうかわるか」

4月間、毎回楽しみだった。定年後、新しい人とのつながりが欲しかったこと、40年近く暮らすうらそえのことを知らなかったことが参加のきっかけです。

毎回たくさんを知り、専門の方のお話にすごく感動をして、自分の中で処理できないうちに、次の講座でまた処理できず、いろんなことが勉強になってよかった。行政のこと、社協のこと、児童センターのことを初めて知った。児童センターが全小学校にあることはすごいことだと思う。

一番残っているのは、こどもの貧困。こども達の心の貧困に、一人の親として心が痛んだ。普通分からないような深刻なことを初めて知ったように思う。

興味のあったボランティアについても、どんなものがあるか、どこに行けばいいのかなど、社会参加の入り口を知ることができた。自分のできることを考えてみたい。

7 しんじ 「浦添の課題…身近にとらえるために」

大学に参加して、たくさん切り口からうらそえを見ることができた。今後のまちづくりのあり方や“国際性豊かな文化都市”は、総合計画から見えた印象的なことだが、出発点に過ぎない。

こどもの貧困や、孤独死、ゴミ屋敷などをシリアスに受とめ、対応する児童館、民生委員、社会福祉協議会について、多少なりとも理解ができた。「近隣住民との希薄化」は身近な課題で、防災についての講義ですらに理解を深めることができた。

そこで、自己実現の場として地域と関われないかと



考え始めたところ、幸い、福祉現場で働いているので、地域との関わりに密接につながっている。地域に精通した知識経験を含め、多角的な視点から、助言・支援のできる人になりたいという自己実現である。

近隣住民との希薄化に対して具体的に取り組む糸口とはならないが、市民大学で学んだ以上、私自身が変わることから始めたい。地域を支え、地域に支えられながら、自己実現を目指す場でもある。そして、そのような地域との相互の関係が私にとっての身近だと思う。

8 ジュン 「浦添よいとこ！」

ぐすーよー…私は、日本語、英語、でもうちなー一口が良くわかりますので、ウチナー口を少し混ぜながら発表します。

親の仕事の関係で、安慶田小学校から浦添小学校に転向して 60 年たち、てだこ市民大学に入学しました。歴史、地域、人との出会いなどを学んで、自分にも何かできることがあるのではないかとチャレンジを受けた。

タクシー乗務員だが、58 号線がありモノレールも開通して、交通は最高だ。浦添城跡、ようどれ、伊波普猷の碑などなど、見所がいっぱい。運動公園もすごくいい場所。ハクソーリッジは、基地の兵隊からよく頼まれて連れて行った。国際センターもあって、外国人を受け入れる、いちやりバー・チョーデーの精神が活かされていると思う。今後、テーマパークとかビーチとか、最高の夢が広がった。

市民大学で“ふるさと”を再発見した。感謝しています。ニフェーデービル。

9 キーの一 「子どもが輝くまち うらそえ」

うらそえを知り楽しみながら活動したい、地域に貢献したいと考え、うらそえにも市民大学という場があり、具体的に考える機会になった。

講座では、経済活性化という面からいろんな仕掛けがあって、福祉以外でもつながれることは新たな視点で、出会いがあることにわくわくした。

児童センターの活動から、こどもにとって厳しい環境にあることに、大人として現実を知ることが大切だと感じた。私としては、こどもがこどもらしく、のびのび過ごせるようなうらそえであってほしいし、そういううらそえをつくっていききたい。出会いを通して人と人をつなぐお手伝いをできると思う。



うらそえ市民協議会にも加えてもらって、地域に根差したまちづくり活動に関われた。人材が宝なので、人と繋がっていききたい。

具体的に、ファミリーサポートセンターのおまかせ会員の講座を受講中で、この活動を通して、こどもを取り巻く関わりを地域の大人で広げていきたいと考えている。

今回、多くの皆さんと出会えたことを感謝しています。

10 りゅうこ 「子供の町…明るい 浦添」

日本語の自信がなくて、英語の方がいいんですけど、がんばります。

講座を受けて印象的なのは、こどもの貧困です。最近の仕事で高齢者と関わっていて、デイサービスとかお手伝いをしている。ストレスも多くて難しいけど、知ることも多く、お年寄りにはケアが必要だと思う。

活動したい、手伝いたい気持ちがいっぱいです。でも、私のスケジュールでは何ができるかわからない状態。すぐにできることは声かけが一番いいと思っている。貧困の問題についてCSWの皆さんからお話を聞いて、気づいたら声をかけることや、児童センターやNPOのイベントなどの手伝いを考えている。

どうにか活動していきたいので、私ができることを考えていて、小さなことをやって、うらそえが一番になるためにやれたらいいな、と思う。

英語しかできないので、こどもやお年寄りに英語を教えたり、通訳とかもできるし、年1回でも活動することが一番大事だと思った。

皆さんの知恵や応援もいただいて、私も周りをサポートできるようになりたい。



11 こじゃ 「ゆる～いネットワークでつくる誰にでも優しいまちづくりをめざして」

福祉の職場で、「行政は何やってるの?」と感じていたが、いろんな人がいろんな人のせいにしていること、行政も限界があると感じてから、市民としてどこまでできるかを意識するようになった。

自治会が面倒をみる田舎とは違い、みんな忙しいのが浦添市。出身地以外

の人が多い、必死に生きているのが現実で、他人のことを考えることができないと感じている。

今回、市民大学だから出会える方と知り合えたこと、いろんな状況を直接聞いて自分の中で落とし込めたこと。活動を考えるきっかけになった。

最も大切にしたいのは“「ちゅいしーじー」の心を育てる”という言葉。まず、中高校生にも意識してあいさつをし、顔見知りになり、知り合うことでいろんなことをやってみたくなる。共有・共感・協働の流れで、ゆるいネットワークだと思う。

「働くもの食うべからず」との家訓から、犬にもできることと、セラピードッグスクールに連れて行った。すると、犬が嫌いな犬、人が嫌いな犬など、問題犬が集まっていて、犬の社会も社会性がなくなっている。犬も核家族化していて、人間社会の延長かなと感じた。犬も地域の一員として、散歩のついでに防犯や見守りの活動をしていきたいと考えている。



12 由美ちゃん 「トキメキの街 浦添」

私は、10年前の市民大学第1期生ですが、いつもトキメキしたい、ドキドキしたい、新たな発見をしたい、と好奇心旺盛な性質で、地域に役立つことをしたいと思っていた。実際には、いろんな状況が重なって思うように活動できなかったが、卒業レポートは、屋富祖通りの活性化をテーマとして、現在も続く屋富祖通りのお祭りの第1回実行委員会に参加できたし、「ひやさっさい」の名称を発案することもできた。

今回の大学では、皆出席というわけにはいかなかったが、休んだ講座の資料を後日見たりしながら、皆さんが、これだけうらそえのことを真剣に、その未来を考えていることをすてきだなと感じた。現在市の婦人連合会会長の役職に就いて、行政との関りも多く、行政の皆さんの頑張りにも刺激を受け、又、市民大学で皆さんからも刺激を受けた。皆さんの発表を聞きながら、表情が輝いていて、すてきだなと感じ、これからも市民大学を続けてほしいと感じた。

13 みや 「私のうらそえ、今昔。」

物心ついたころから大学生まで浦添に住んでいたが、これまでうらそえを意識することなく、“うらそえぐすく”といった名前を知る程度で、その歴



史や特徴を知らなかったし、他人に伝えたいとも思わなかった。

就職を機に県外に出て、出身地を訊かれても、「那覇の北にある住宅地」と地理的ことをそっけなく答えるだけだった。TVのADの仕事をして、いろんな所でいろんな人と出会いがあった。最も印象的だったのは、地元のことを知り、全国に伝えるということになった宮古島での訪問医療の取材だった。宮古島の取材で、沖縄のことを学びたいことを感じた。

Uターンをして、以前通っていたそば屋やケーキ屋がなくなっていたり、普段気づかないうらそえの変化に気づいた時、寂しさを感じた。「ないもの探しよりも、あるもの探し」という知人のことばに触れ、市民大学でうらそえの魅力探しをしようと大学に参加した。

皆出席はできなかったが、講師の話聞き、皆さんと話し合うこと、仲間になれたこと、そんな場があったことで、このまちのことが自分事になってきた。特に印象的だったのは商工業に関する講座で、りっか浦添の事業を聞いて、面白いところがいっぱいある、探検したいと思うようになった。

今日で、市民大学での学びは終わりになるが、今後も、うらそえについて学んでいきたいと思う。



浦添市てだこ市民大学沿革

本市は、市民一人ひとりの学習の成果を本市のまちづくりに活かせる社会、また、多様な学習を通して、まちづくりに関われる社会の実現をめざしています。その理念の下、第三次浦添市総合計画(平成13年～22年)の重点施策として市民大学構想が実現し、4学部、2ヶ年制の市民対象の大学として平成20年10月に開学、平成21年5月に1期生が入学し、現在に至っています。

本市民大学は、「学習してきた成果を地域社会や学校教育等に還元していく」ことを理念とし、キーパーソン、リーダーとして、これからのまちづくりに寄与できる人材を育成することを目的とし、第四次総合計画(平成23年～32年)では、「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」に取り組むことがより重要とされ、協働のまちづくりに向け本市民大学の担う役割は、さらに重要性を増しております。

令和年度、本市民大学は11年目を迎え、制度および講義内容を見直し、「市民協働によるまちづくり」の学びを充実して参りました。

卒業生及び受講された皆さんは、延べ280名となりました。卒業後は、自治会の役員、市社会教育指導員、学校支援地域本部事業コーディネーター、放課後子ども教室コーディネーター、スポーツ推進委員、青少年健全育成市民会議事務局員、各種審議会、各種団体(市PTA連合会、市婦人連合会、市子ども会育成連絡協議会、市民生委員・児童委員連絡協議会、人権擁護委員、行政相談員)等の役員・委員等、各分野で活躍しています。

